

令和6年度 第2回佐賀市総合教育会議 議事録

- ◆ 開催日時
令和7年2月17日(月) 14:00~15:00
- ◆ 開催場所
佐賀市役所本庁舎南棟2階 庁議室
- ◆ 出席者
<市長部局> 坂井市長、池田副市長
<教育委員会> 丹宗教育長、堤教育委員、山田教育委員、鳥飼教育委員、長崎教育委員、
楨原教育委員
- ◆ 議題
教育大綱の改定について
- ◆ 会議の公開又は非公開の別
公開
- ◆ 傍聴者・報道関係者数
0名
- ◆ 議事要旨

1 開会

○事務局

令和6年度第2回佐賀市総合教育会議を開催させていただきます。会議は佐賀市審議会等の会議の公開に関する規定に基づき原則公開します。初めに、坂井市長からご挨拶と、佐賀市教育大綱に込めた教育への思いを申し上げます。

○市長

皆さんこんにちは。教育委員の皆様には、密に連携して意見交換等をさせて頂いていることに改めて感謝します。本当にありがとうございます。今年度は、教育大綱、教育ビジョン、教育振興基本計画、総合計画、皆様お忙しい中にご協力頂き、ご知見を頂いて、本当にありがたいと思っております。

- ・時代が大きく変化する中、教育の在り方も考えていくことが非常に大事。この教育大綱は、委員の皆様にもご意見等賜っているとお聞きしている。
- ・今までの教育が悪いということではない。これからの時代を考えた時に、時代がどんなに変わっても変わらぬ本質は、子どもたちの幸せを第1に考えていくこと。
- ・背景として、経済成長を遂げていた中、効率性や同じ方向に向いて頑張っていくことが求められていた。鍵となるのが主体性。子どもたちの良さ、個性を伸ばしていく教育が非常に大

- 事。主体性というキーワードを入れ育んでいくことが、幸せにつながっていく。
- ・ AI等が瞬時に知識や回答を示してくれる時代だからこそ、気づき、あるいは問いや課題の発見や好奇心が大事になってくる。
 - ・ 教育現場も創意工夫されていると思うが、受け手の様にして知識を学ぶ時代から、学びの当事者になっていくという発想の転換が大事。
 - ・ 人口が減少し、子どもの数も減っている中で、改めて社会全体で子どもたちを支えていくことが大事。
 - ・ 人生100年時代とよく言われるが、意外と若い人たちのためにある言葉ではないか。子どもたちが就職する時に、一生の仕事、やりたいことが見つからないと悩んでいる。分からなくて当然。踏み出してやってみて、模索し、そこから色々な出会いがあり、未来が開かれる。
 - ・ これまでは、学んで、定年まで働き、リタイアした後の第2の人生という3つの人生のステージが分かりやすかった。
 - ・ 今はマルチステージになり、それも行き来する。生涯学び続けることが大事になる。
 - ・ 学び直しや多様な学習機会を、教育委員の皆様と市長部局が連携し、公民館、図書館といった施策も連携し進めていくことが重要になる。
- 今日は、色々なご意見を伺えればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

2 議事

○事務局

ありがとうございました。佐賀市教育大綱の改定について企画政策課から説明を行います。

○企画政策課

- ・ 教育大綱は、教育の目標や施策の根本的な指針となるものと位置付けられ、この総合教育会議において、首長と教育委員会が協議、調整を行った上で首長が策定する。現行の教育大綱は、令和2年から6年度までの5か年。今回定める範囲は、教育委員会所管事務の学校教育と社会教育とし、首長部局で所管している文化・スポーツは除く。期間は、令和7年4月から11年3月までの4か年。
- ・ 2ページに、「教育を取り巻く背景」を高度成長期から情報社会、これからの予測困難な時代と整理。これまでの学校教育は、みんな一緒に同じペースで同じことを学ぶということがあった。これからは、一人ひとりの特性や進度に応じた方法で学ぶこと、主体性や対話を通じた課題の解決を重視していく方向を記載し、その他これまでの成果や課題を列挙した。
- ・ 下に取り巻く背景として、子どもたちに必要な資質や能力が変化していること。2項目に子育てを取り巻く環境が大きく変化していること。3項目に学びの時期や内容の多様化が進んでいることをまとめている。
- ・ 1項目では、これまでの教育を踏まえ今後の教育の在り方を定めていくことや未来を切り拓く力の育成について。2項目の子育て環境では、子どものいる世帯割合の減少や共働き世帯、あるいはシニアの就業率の増加など、取り巻く環境が変化してきていること。3項目は、技術の進展や様々なライフプラン、考え方が変わってきている環境を書いている。
- ・ 「佐賀市の教育の方向性」で3点。まず3ページ目に、これからの教育の方向性として「子どもたちが主体的に楽しく学ぶことができる教育環境をつくる」とし、次に「子どもたち自身が教育の受け手から学びの当事者に」なること。そのために必要な3つの力として、「自律」「尊重」「創造」を掲げている。
- ・ こどもたちの学びの充実では、個別最適な学び、協働的な学び、課題解決型学習など。学びの場や教育の環境の充実では、就学前からの学びの連続性の確保、インクルーシブ教育の推

進、それらを展開していく方向性を記載している。

- ・続いて4ページ目。「地域全体が子どもたちの育ちを支える」これまで実践してきたまなざし運動、あるいは子どもたちが安心できる居場所づくり。これらをさらに進めていくことをうたっている。
- ・生涯学習・社会教育の分野では、学びの時期も多様化し、何歳からでも学び成長出来る学習機会がますます重要になる。多様な学習機会の提供やリスキリング、あるいは現在検討している図書館機能の充実。サードプレイス、居心地のよい居場所づくり。そういった様々な取組を今後展開していくことをうたっている。

○教育委員

- ・社会の変化に伴い、連携して子どもたちの育ちを支える家庭・地域・企業、学校の4者は大きな変化を迎えている。組織の変化というより社会全体の変化であると思う。学校は学びの変化、教職員の働き方改革。教職員の人材不足は深刻。学校の負の面が強調され、教職員のやりがいや楽しさに触れられていない思いもしている。
- ・子育ての第一義責任者である家庭においては核家族化、女性の就業率の向上、経済格差。子育てを苦手と感じる家庭や相談に足が向かない家庭をどうやって向けていくのが課題。
- ・地域においては、定年延長や年金の受給率の繰下げで、地域を支えていた60歳以上の多くが働き、65歳までフルタイムで働く方が多い。そのため地域を支える人材不足が1番問題で、後継者がいないことも聞いている。人不足で成立しにくくなった組織もあると聞く。
- ・企業においては、子育てや地域貢献に理解のある企業が増え男性の育休等を取られている家庭もある。しかし、子育てに手厚くと思うと人が必要で、企業も人不足。特に1番密接に関わる保育施設は保育士不足。人口増加地域と減少地域では課題が異なり、増加地域では待機児童、減少地域においては保育園の統廃合、定員の減少など地域によって様々。
- ・4者の連携の在り方も変わって、以前のような連携は非常に難しくなり、昔はこうだったのに今はこういうところが出来てないという不満も聞く。
- ・前例を変えるよりも、新しい連携はどうあるか考えていかなければならないが、予測不可能で都度、連携の在り方も見直していくことが求められている。
- ・佐賀市においても、社会の変化と共に必要となる支援の在り方も変わってくる。これからもその時その時に応じた主体的な支援を頂ければと思う。

○市長

- ・おっしゃるとおりだと思う。子どもたちの主体性では、行政自体が主体的に動いていくことが大事。「動きます、佐賀市。」と掲げている。昔に比べやることが増えて、意欲のある先生方も多忙で残業も多いという現状もある。そういう意味で、人、子どもたちを育てるのは価値のある仕事で、尊敬される、やりがいのある仕事だというのが原点にある。
- ・先生方は、責められる機会も多いが、先生たちだけの問題かという部分もある。やるが増え、スリム化も必要。引き続き、一緒に考えていきたい。
- ・連携の在り方が大きく変わり、新しい事例をつくっていく発想で考えていく。まさにおっしゃるとおりだと思う。共働き世帯の数も激変し、働く方の年齢も65歳以上70歳までの約4割が、何らかで働いている話も聞く。
- ・一方、地域に何らかの貢献をしたい企業と連携し、持続可能な形を考えることは大事。
- ・子どもたちも多様化し、別室登校といった課題も聞く。その辺りも充実させたい。特別支援教育も、数も専門的などころも高め、より子どもたち一人ひとりへのサポートを充実していけたらと思う。

○教育委員

- ・教育委員として活動して気づいたことを挙げながら、1番目の「子どもたちが目標を持って

主体的に」の考え方。特に幼児期をお話させて頂きたい。

- ・小学校での学習という新しい生活に慣れ、学ぶ喜びや友達と共に考え探求していくことがスタートする。幼児期は、そのベースとなる心を育む大事な時期。体験を通してしか感じる事が出来ない、知ることが出来ない貴重な体験を、幼児期にたくさん保育現場です。ご家庭でも同様。
- ・人間形成の基礎が培われる大切な時期で、小学校入学後も楽しく意欲的に学べる様、幼保小連携がとても大切。強く感じたのは、佐賀市の取組の1つ、学びの接続期の教育プログラム「えがおわくわく」。子どもの今を温かく受け止めて、その結果子どもが笑顔になる。小学校に上がり期待感を持って、意欲的に学ぶことが楽しいわくわくする気持ちを育てていきたい思いがこのネーミングに託されていると知った。
- ・年長アプローチカリキュラムと小学校1年生スタートカリキュラムが示されて、これを1つの指針にして保育を行う。保育現場と小学校1年生を対象とした教育現場に参観する機会を得て、1年間で保育施設は約30か所。小学校は15校ほど参観させて頂いた。
- ・保育施設では、他の園の先生方の参加も非常に多く、主となる園の保育観にアプローチカリキュラムをいかに工夫して取り入れているかを学び合う、大変有意義な機会になっている。意見交換で、他園との違いや気づきを聞く機会にもなる。小学校の先生が就学前の姿を見る機会にもなっていて、相互理解の非常に貴重な場となっている。
- ・1年生のスタートカリキュラムでも同様に、保育者が小学校で授業を見て、卒園した子どもたちが伸び伸びと楽しく授業に取り組んでいる姿を見て安心したとか、大事にしていること、小学校の先生から質問など、連携という部分で1つの方向性を持ちながら改善する有意義な場で貴重な取組と、行くたびにその思いが強くなる。
- ・先生方は、子どもたちの今を大事に授業や保育に取り組まれてすばらしい。その中で、もっとこう実現させたいとか、こういうことをやりたいという部分で、保育者の人材不足や育児に対しての不安が多い保護者、育児そのものに戸惑っているとか、子どもとの関わりが難しいことに対して、先生方が対応されている現状を聞くことが出来た。
- ・小学校からの学習には、幼児期の子どもたちの心の栄養、人との関わりや五領域10の姿に示されているとおりだが、子どもたちがいきいきと興味や好奇心を持って、お友達とやることの楽しさを知る、そういった経験が幼児期には大事で、それが小学校の学びにつながっていく。単に情報交換の連携だけではなく、学びの連携・連続性というところがすごく大事だと気づかせて頂いた。
- ・方向性には、就学前から続く学びの連続性の確保とある。皆さんに幼児教育の大事さを。そして筋から離れるが、保護者の支え方や、先生方が十分に保育や教育にあたれる様な保育環境・教育環境が前に進めば、結果的に子どもたちのWell-beingに結びついていくと感じた。

○市長

- ・幼児期の学びの大切さや、幼保小で連携していく。単なる情報交換だけでなく、学びの連続性が非常に大事だということ、たくさんの園や小学校を回って感じられた内容を詳しくお聞きすることが出来た。一人の親として、小学校の先生が園に来て、色んな形で就学前にサポートして下さることが、どれだけ親御さんにとって助けになるかも実感した。すごく熱心にお忙しい中でされていることに頭が下がる思い。
- ・文科省も大切だと改めて言っているが、佐賀市もある意味先駆けた部分もあり、非常に良い取組で、今後も充実させていくことが大事。保育士不足や担い手不足の問題は非常に深刻な課題だと思っており、色んな支援策、制度も設けているが、絶えず使いやすいものに見直し、保育者の確保、環境の充実につなげられるよう一緒に取り組んでいきたい。

○教育委員

- ・「地域全体が協力し、子どもたちの育ちを支え、子どもも大人も笑顔で過ごせるまちを目指します」の部分で意見。この活動のキーワードになるコミュニティ・スクール。赤松小学校が、平成19年から設置し活動させて頂き、今年度文科大臣表彰を頂く。古巣になるが居た人間としてお礼申し上げたい。
- ・活動している状況を色々な形で評価して頂ければ、他のコミュニティ・スクールも、もっとという気持ちになる。これは、ここに挙げられている「子どもへのまなざし運動」とも等しい部分がある。まなざし運動推進大会で、市長から活躍された皆さんに表彰状をお贈りされた。もらった方はそれで卒業じゃなくもっとというお気持ちになられているという声を伺う。そういった形で、子どもだけじゃなく、大人も承認頂ければやる気ももっと満ちあふれてくる。
- ・関わる人は、地域や保護者に限らず、企業にもご尽力頂いている。これから先は、企業や事業者の方々にこのまなざし運動のこと、コミュニティ・スクールのことを理解していただき、関わって頂くことも大切じゃないか。ただ、企業の方々にご理解頂くためには、教育委員会からだけでは非常に弱いと感じている。ぜひ市長部局の方々に対してこのまなざし運動の取組、またコミュニティ・スクールとして活動をしている学校群のある地域の企業に、学校を核とした地域づくりを呼びかけて頂きたい。充実した学校運営協議会、コミュニティ・スクールの成功事例の市として働きかけてほしい。
- ・他市町でもコミュニティ・スクールが展開されていることは聞くが、名前ばかりであり活動が思わしくなく学校の負担になっていると聞く市町もある。佐賀市はそうならない様に理解を得た学校から進め、今35%、市内53校あるうちの19校がコミュニティ・スクールとして活動され、来年以降も増えていくと伺っている。良い流れで進んでいるので、ぜひ活性化していくためにも、教育委員会だけでなく、市長部局、関係各課でご理解を浸透して頂ければありがたい。

○市長

- ・赤松コミュニティ・スクールの運営協議会会長として、長年モデルになる取組をして頂き、新しく設置する際の講師も務めて頂いているとお聞きしており、文部科学大臣賞受賞誠にありがとうございます。
- ・まなざし運動も含め、非常に良い取組を長年多くの関係者の皆さんの努力によって続けてこられていることも非常に大切だと思っている。取組が持続的に出来るように、状況の変化も様々あるので、アイデアとして頂いた企業の関わり、まなざし運動でも色々な形で協力してくれている。赤松ではファンドをつくり、地域からの寄附金を募り工夫をされている。そういった取組も、関係者が企業も含めてみんなで子どもたちの育ちを支えることが出来る様に、市長部局もしっかり連携させて頂き、取組を充実していければと改めて思った。実態や取組の内容など参考にさせて頂きたい。

○教育委員

- ・方向性3で「好きなときに好きな場所で学び」というフレーズが出てくる。下にサードプレイスとしての図書館機能の充実という記載がある。説明には、自宅、学校、職場などではない居心地のよい居場所とあり、すごくいい言葉だと思って調べてみたら、アメリカの社会学者であるレイ・オルデンバーグ氏が提唱された言葉で、中立、平等主義の他にアクセスのしやすさと居心地という特徴がある。
- ・高校生・中学生・小学生の娘がいるが、高校生の娘は、まさにサードプレイスとして市の佐賀市立図書館や青少年センターを利用している。友人の中に学校に行けなくて困っているけれど、青少年センターや市立図書館だったら利用出来、学習し本を読んで過ごすことが出来る友人もいる。

- ・中学生や小学生の子どもたちは利用していない。青少年センターは8キロ離れ、市立図書館は10キロほど離れている。子どもたちの交通手段は歩きや自転車が主で、親と一緒にないと利用出来ない。どうしたら利用出来るか考えた時に、校区にある公民館であれば歩いて行ってサードプレイスとして活用出来る。子どもたちがアクセスしやすいことは、幅広い年齢の方がアクセスしやすい場所。
- ・地域コミュニティの結びつきが薄くなった時に、色んな年齢の方が公民館を利用し、サードプレイスだけでなく、リスキリングや学習成果の発表の場になることで、地域とのつながりが強くなる良い循環が出来る。つながりが強くなることで、子育てがしやすく、子どもに限らず色んな年齢の方が過ごしやすい場所になりうる。

○市長

- ・昔は駄菓子屋が地域にあり、空き地で集って遊んだ。それが希薄化し、子どもの居場所も多様な受皿が必要な時代。図書館や青少年センターも、そういう意味で大事な役割を果たしている。高校生は勉強する時に使っていると思うが、小学生や中学生を考えた時に色んな場所があったらより良い。もちろん図書館も、子どもたちがどうしたら楽しんで本と親しめるかなど、今後のリニューアルの中で考えていきたい。アクセスの問題もあるため、公民館を活用していくことも大事な視点だと思った。
- ・公民館の法的な位置付けを見直す検討をしており、実証実験を本庄校区など幾つかのところで言い、7年度も行う。本庄公民館は大学も近く、アカペラサークルの学生が子どもたちに椅子取りゲームを企画してアカペラも披露し、外のキッチンカーでご飯を食べ、年上のお兄ちゃんお姉ちゃんと子どもたちが一緒になって遊ぶ活用が出来て非常に良いと思った。
- ・高齢でも働く方が増えている中、企業、現役世代、大学生たちに参画してもらうのがこれからの地域コミュニティには大事。幅広い世代が担い手になる見直しだが、良い形で持続的な地域活動につながり、そこに子どもたちが関係する公民館の在り方を模索したい。もちろん、学びの拠点という視点も大事で、今伺ったご意見も参考に検討していきたい。

○教育委員

- ・子どもたちの主体性を育むことは、冒頭のメッセージのとおり、子どもたちが未来を自分の手で創って自分の人生を主人公として生きていく上で必要不可欠。それには学校教育だけでなく、家庭、地域、企業、全ての方の取組が必要。そのために教育大綱に記載して頂いた、主体性を育む教育の価値を、社会や大人全体で共有していく必要がある。
- ・主体性は、学校教育だけで育むわけではなく、家庭や地域、家庭の方が所属する企業、地域の企業、全体で主体性を大事に育てようと思って頂ける価値観の共有が必要。佐賀市の教育の方向性の価値を、様々な形で市民や企業に知って頂ける発信をお願いしたい。
- ・今までの教育に効率性が求められてきたと示されていたが、一般の方も企業も効率性は（今も）大事にされている。コスパとかタイパとか色んな言葉があるけれど、効率に一定の価値を見いだすことは多い。
- ・子どもたちの主体性を大事にする教育には、回り道してうまくいかない部分が大人主導より多くなる。局面だけ見れば非効率な状況に、寄り添うことに価値があることをみんなで共有したい。子どもたちが大人になった社会、佐賀市の未来のために、非効率な場面に寄り添っていくことに価値があることを発信して頂きたい。その価値に向き合える余裕のある社会をつくるための仕組みも検討していきたい。
- ・学校教育では先生方の働き方改革や多忙化解消、先生方が学校で子どもたちの主体性に向き合う余裕を持って、家庭や地域で自身や地域の子どもの主体性に向き合う余裕を持てる様に考えていかないといけない。
- ・多くの人が最も多くの時間を費やす場所である企業が、地域や従業員の子どもの主体性

を育むことに目を向け価値を感じ、それを許容出来る余裕が持てる企業自体の仕組みやサポートが必要。社会全体で主体性を育まれた子どもたちであれば、きっと多様化の中でも生涯にわたって自分の判断で学んで成長し、生きがいを持って主人公として生きていてくれるだろうし、そういった人が集う将来の佐賀市はとても魅力的になるだろうと思う。

○市長

- ・大人は誰しもが教育を受けてきた経験を持ち、色んな考え方を持っている。そうした中で、これまでは効率性だったけど主体性ですと言ったときに、両方をやれば良いとなる。例えば部活動、子どもの意見を聞いて量も内容も見直しますとなった時に、昔はもっとしていたとか。一方で子どもたちはまっさらな状態から不確実な時代を生きていく。そういう子どもたちにどういう教育の在り方が1番良いのか考えた時に、やろうとしていることを皆さんが教育の経験者だからこそ分かりやすく伝えていくことが大事。
- ・今までの何かを否定するのではなく、やろうとしていることを伝えていくのが非常に大切。理解して頂き、それなら協力するという様な、力を合わせるとエネルギーが生まれる。
- ・佐賀はコミュニティも協力する姿勢も非常に良い。教育を新しいものにしていく中で、教育委員の皆さん、学校現場で頑張っている先生方も、地域、企業、家庭と一緒にあって、改めて今日の会議を経て思いが強くなったので、引き続き連携して対応していきたい。

○事務局

貴重な御意見ありがとうございました。最後に市長からまとめの一言お願いします。

○市長

皆さんが日頃から教育について考えておられることが、非常に伝わってきました。今日の会議に限らず、色んな機会で見聞きを、一緒になって形にしていくことをぜひやっていきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

3 閉会

○事務局

ありがとうございました。佐賀市教育大綱は冒頭に事務局から説明しましたように、地方公共団体の長が策定することになっております。今回の大綱につきましては、おおむね了承頂いたと思いますので、これを大綱として、今後事務方の方で策定していきたいと考えております。次の会議は来年度になります。新しい佐賀市教育大綱に基づいて、今後も各種の課題等について協議を行っていききたいと考えております。それでは以上をもちまして令和6年度第2回佐賀市総合教育会議を終了します。本日は誠にありがとうございました。